

教養・基礎教育部門
令和7年度 研究活動報告書

教授 木村正則 教授 西垣佐理

准教授 赤羽仁志 准教授 シェリダン ロバート・ジョーン

教養・基礎教育部門の構成員それぞれの専門分野を基盤として、外国語科目（とくに英語）に関連する幅広い研究を行っている。令和6年度に引き続き、木村教授は今後の英語教育の在り方を模索する手がかりとして、英語教育とフランス語教育の教授法のアプローチの違い及びその背景にあるそれぞれの教育哲学について調査した。西垣教授は19世紀イギリス初期ヴィクトリア朝時代の文学、特にチャールズ・ディケンズ、ウィリアム・メイクピース・サッカレー、シャーロット・ブロンテの同時期に書かれた3作品に見られる物語戦略としての病室・看護表象をヒロイン造型を中心に歴史・文化的視点も含めて比較分析した。赤羽准教授は、ミニマリスト・プログラムの最新の枠組みである「ボックス理論」により、不適正移動とされてきた現象について研究を行った。シェリダン准教授はSDGsを日本文化や人権問題と関連付けて学ぶための効果的な教育方法について研究を行った。SDGsや人権問題に取り組む専門家や活動家への聞き取り調査を基に、日本の大学生向け教材を開発し、これらの課題をグローバルな視点だけでなく地域社会に関わる身近な課題としても捉える学習を促した。この研究は、文化的になじみのある事柄を題材にした教材を活用することが言語習得の向上にどのように貢献できるかというシェリダン准教授のより広範な研究関心の一部である。また、語彙習得も主要な研究テーマの一つである。これまでの研究では、教育者が作成した電子媒体の単語カードと学習者自身が作成する紙媒体の単語カードのいずれも、新出語彙の初期習得に有効であることを明らかにした。現在は、シェリダン准教授が開発した協働型紙媒体単語カードアクティビティについて語彙習得の促進および学習者の理解度評価の両面から、その教育的効果の検証を進めている。

「原著論文」

- 1) Sheridan, R. 「Vocabulary Learning Through Word Cards, Collaborative Activities, and Assessment Techniques」『LEARN Journal: Language Education and Acquisition Research Network』第19巻第1号（2026）272-291頁.
<https://doi.org/10.70730/YXWY7839>
- 2) Sheridan, R., Tanaka, K. 「Bridging global goals and local contexts: Advancing equity and human rights in university classrooms」『Journal of International Students』第16巻第2号（2026）199-226頁. <https://doi.org/10.32674/28zzzev43>

- 3) Sheridan, R., Tanaka, K. M. 「Localizing the Global Goals: The Impact of Domestic Human Rights Issues on Japanese EFL Students' Engagement with the SDGs」『Journal of NELTA』第 30 巻第 1 号 (2025) 1-22 頁.
<https://doi.org/10.3126/nelta.v30i1.87799>
- 4) 西垣佐理. 「『北と南』におけるジェンダー・イデオロギーの再構築—マーガレットとソートンとの関係を中心に—」『ギヤスケル論集』第 34 号 (2024) 63-75 頁.
- 5) 赤羽仁志. 「Tough 文について—『不適正移動』の適正な取り扱い—」『近畿大学教養・外国語教育センター紀要 (外国語編)』第 16 巻第 1 号 (2025) 19-43 頁.
「講演」
- 6) 西垣佐理. 「物語戦略としての看護—1847-48 年のディケンズ・サッカレー・ブロンテ—」2025 年度関西学院大学英米文学会総会、兵庫県、西宮市、関西学院大学上ヶ原キャンパス、2025 年 9 月.

「学会発表」

- 1) Sheridan, R. 「Culturally Relevant, Ready-to-Use Materials for Engaging Students with the SDGs」TESOL 2026 International Convention & Expo、米国、ユタ州ソルトレイクシティ、ソルト・パレス・コンベンションセンター、2026 年 3 月.
- 2) Sheridan, R. 「Letting Students Choose: Does Cultural Familiarity or Topic Have a Greater Influence on Text Selection?」The 24th Annual Hawaii International Conference on Education、米国、ホノルル市、Hilton Hawaiian Village Conference Center、2026 年 1 月.
- 3) Sheridan, R., Tanaka, K.M. 「Empowering Students Through SDGs and Human Rights Education」JALT 2025 全国語学教育学会・第 51 回年次国際大会教材展示会、東京都渋谷区 国立オリンピック記念青少年総合センター、2025 年 11 月.

「その他」

- 1) 書評：西垣 佐理、「川崎明子著『人形とイギリス文学—ブロンテからロレンスまで』」『英文學研究』第 101 巻 (2024) 104-107 頁.

「公的資金」

- 1) 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), (代表者) Sheridan R, Tanaka K, Swier R, Global Issues, Local Issues: The SDGs and Social Justice in Japan and Abroad 課題番号 : 23K00665, 令和 5 年度～令和 7 年度, ¥4,160,000
- 2) 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), (代表者) 西垣 佐理「初期ヴィクトリア朝文学に見る病・医療・看護表象の歴史的研究」課題番号 : 21K00405, 令和 3 年度～令和 7 年度, ¥1,690,000

「各種委員会委員などの兼務業務」

- 1) 全国語学教育学会大阪支部の企画共同委員長 (R. シェリダン) 全国語学教育学会大阪支部の企画委員長として Osaka JALT Back to School 2025 Conference を主催 (発表者 62 人・参加者約 125 人)、2025 年 4 月
- 2) The 22nd Annual CamTESOL (国際英語教育学会大会) Main Conference Program Committee Member (Abstract Selection Committee) (R. シェリダン)
- 3) Elsevier: Social Science and Humanities Open 審査委員 (R. シェリダン)
- 4) ディッケンズ・フェロウシップ日本支部 VOD 担当理事補佐 (西垣佐理)
- 5) 日本英文学会関西支部会計監査・大会準備委員 (西垣佐理)
- 6) 日本ヴィクトリア朝文化研究学会大会企画・準備委員 (西垣佐理)
- 7) 関西学院大学英米文学会編集委員 (西垣佐理)
- 8) 国立大学法人 大阪大学外国語学部非常勤講師 (継続) (赤羽仁志)
- 9) 公立大学法人大阪 大阪公立大学非常勤講師 (継続) (木村正則)